

危険な頭痛が隠れていないか

頭痛ナース養成講座に参加しました

外来看護師



9月11日、頭痛ナース養成講座（後援：一般社団法人 日本頭痛学会）に当院から外来看護師6名が参加しました。大阪会場を中心に全国5か所をネットで結び、約250名の参加がありました。

講演会では、頭痛診療の看護師の役割と重要性、そして頭痛診療をより効率よくするためにという内容で医師、看護師、心理士、薬剤師など多方面からの講師のお話がありました。頭痛は命にかかわる非常に危険な頭痛から普段の日常生活に支障を持つものまで様々です。また頭痛が起こる原因やそれによって生じる生活の支障は、患者さんたちによっても様々です。そういったことを踏まえて頭痛ナースの役割は、診察室に

入るまでをスムーズにできるようにお話を聞いたり、危険な頭痛が隠れていないかのトリアージを行ったり、診察の終了後も患者さんのお困りになっていることにも耳を傾け、服薬方法や生活習慣の見直しといった投薬以外のサポートも行うことで治療満足度を向上することにあるようです。

当院では頭痛を訴える患者さんは、多くが脳神経外科や内科を受診されています。また最近では頭痛外来も開設され頭痛を訴えて受診する患者さんも増えてくることが予測されます。今後も講演会などに参加し、たくさんの情報を習得し患者さんに満足のいく治療をサポートできるように頑張ります。

急性期医療に対応 個室の増設も

—東館増築計画について—



現在、大久保病院では病院東側用地に東館を増築する計画を進めています。

計画では東館は4階建てとし、1階には外来診察室を整備し、2階から4階には94床の病床を整備し、現在の北館2階と3階の急性期病床を移転させる予定です。

新病棟は、個室の数を大幅に増やし、ICU（集中治療室）を整備するなど、急性期医療に対応できるように計画しています。

来年11月には工事が完成し、準備が整い次第、オープンする予定ですので、工事期間中には皆さまにご不便とご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。



配置予定図



交通機関をご利用の方

- JR山陽本線「大久保」駅下車、北へ徒歩15分
- 「大久保」駅北口より神姫バス
②のりば 19「山手台」行き
③のりば 12「西神中央」駅、「上岩岡」、「五百蔵」行き「山手小学校前」バス停下車、東へ徒歩5分

車をご利用の方

- 第二神明道路「大久保IC」より、大久保方面へ約10分

特定医療法人 誠仁会
大久保病院

〒674-0051 明石市大久保町大窪2095-1
tel. (078) 935-2563
<http://www.seiinkai.or.jp/okubo/index.html>

片頭痛の治療から予防まで

—“頭痛”病診連携について—

第13回大久保地区病診連携の会より

先日9月3日土曜日、地域の医療関係者を対象とした大久保地区病診連携の会が、コロナ禍のためWeb形式で行われました。今回は“頭痛”をテーマとした内容でした。当院でも普段から脳神経外科をはじめ多くの診療科に受診される患者さんが、頭痛に関する相談をされていることと思います。

まず基調講演では明石市立市民病院脳神経外科の齋藤先生座長のもと、当院の頭痛診療について発表を行いました。“頭痛”で受診される患者さんの多くは、命にかかわる脳の疾患を心配されてか脳神経外科に多く受診されておられ、普段の持病で受診されている中での頭痛の症状を担当医師に相談するといったことで内科の受診も多くみられました。頭痛は多くの患者さんが持つ症状でもあり、さまざまな診療科で相談されることが多いようです。齋藤先生との質疑応答の中

で、頭痛診療においても地域のいろいろな医療機関との連携の重要性を述べられておられました。

特別講演では愛仁会千船病院産婦人科の稲垣美恵子先生から「適切な頭痛診断と治療の重要性」というタイトルでご講演いただきました。普段診療されている頭痛外来を通して、女性のライフサイクルの中での様々な頭痛について解説してくださいました。特に生活で支障度の高い慢性的な頭痛として片頭痛の治療や予防について、また最近の新しい治療薬についても大変詳しくお話をしてくださいました。

当院でも本年1月から頭痛外来を開設し、慢性的な頭痛にお悩みの患者さん方へのお役に立てるように努めています。また院内での各科との連携や地域の医療施設の先生方とも連携を図り地域での“頭痛”診療の質の向上に努めていきます。



基調講演中の内藤子来医師



特別講演をいただいた
千船病院産婦人科 稲垣美恵子先生



基調講演の座長を務めていただいた
明石市立市民病院副院長 齋藤実先生



開会挨拶を務めた山村誠院長

看護の歴史から手洗い講習など

ふれあい
看護体験



例年10名前後の高校生の皆さんをふれあい看護体験に受け入れていました。

今年は、コロナ禍また第7波の急速な感染拡大で多くの病院で職員の感染によりマンパワー不足に陥っている状況下、受け入れ病院が不足し当院には20名以上の応募がありました。感染委員会と協議し24名の学生の皆さんを受け入れることにいたしました。

そのため体験日を2回に分け実施することになりました。

高校生の中には、昨年も申し込みをしたけれどもも参加できず、やっと今年参加できた学生もいる状況でした。

昨年同様、患者のそばで体験することはできませ

ん。その中で看護大学や看護学校に進路を決める後押しができる体験、もしくは医療関連の学校に進むきっかけづくりができればと考え実施した2日間でした。

看護師の歴史から手洗い講習、医療安全グッズの紹介、手術室の模擬体験、新人看護師からのメッセージを時間のある限り行いました。

学生の皆さんは、看護師の制服に着替え、どこから見ても新人看護師のようでした。

また、純粋で若さにあふれ、私たちが考えた以上の吸収力を見せてくれ驚きました。

はじけるような笑顔を私たちに向けてくれ、若さのエネルギーを私たちが頂いた1日となりました。